

の結果として七月十五日、東京市本所公會堂 八月十九日大阪市中央公會堂にその組織準備会を開催した。出席者は右翼及び自由聯合系を除く全部出席して熱心なる討議が重ねられ、その組織方針は『無産政黨並に思想的諸傾向に囚はれず』進むことに決定し、當面の任務は左の三項目に基くこと、なつた

一、労働組合の意志表示

二、労働組合の組織並に統一促進

三、労働組合の國際的連絡

更に組合會議規約の審議を経て、直ちに『全國労働組合會議』を正式に結成せしむるや、否やに及び『右翼をよ加へて後結成すべし』といふものと『直ちに結成すべし』といふものとの二説に分れ、遂に準備會として持續脱勝を占めた。尔来実行委員會によつて結成を努力しつゝ、あつたが、一月二十日、東京に開かれたる実行委員會は、事實上不可能に近い形勢を示しつゝ、ある

かくの如く全國労働組合會議は、幾多の障害に直面したが、我等は依然としてこの組合會議の提唱の正しかつたことを確信するものである、唯だこの時に當つて労働總同盟を中心とせる右翼が國際労働會議の労働代表選出を中心として政府と結び、海軍労働聯盟等を利用し、労働立法促進委員會の名の下に右翼結成を企圖し、一方左翼は、O××黨の指導下に属し政黨の走狗と化してゐる、かくの如きは労働者の自主的な實力によつて労働者を解放せんとする労働組合の本質と相容れざるものである、従つて彼等との協同戦線不可能に終つたことを悲しむものではない、唯だしかし彼等の宣傳と偽購の下になやめる労働大衆に向つては、正しき労働組合主義の闘争方針を示しつゝ、不斷の努力を以て次第に巨大なる戦線統一を期せんとするものである、

其大正八年十一月、米國ワシントンに欧州大戰の平和會議に基く第一回國際労働會議が開かれてより毎年國際労働總會に労働代表を送ることは、我が國労働界の年中行事の一つとなつた、而して第一回の榊本卯平より宇野利衛門に至る労働代表は全部労働組合